

① 人口

C0101 人口規模

C0101_人口総数・増加数

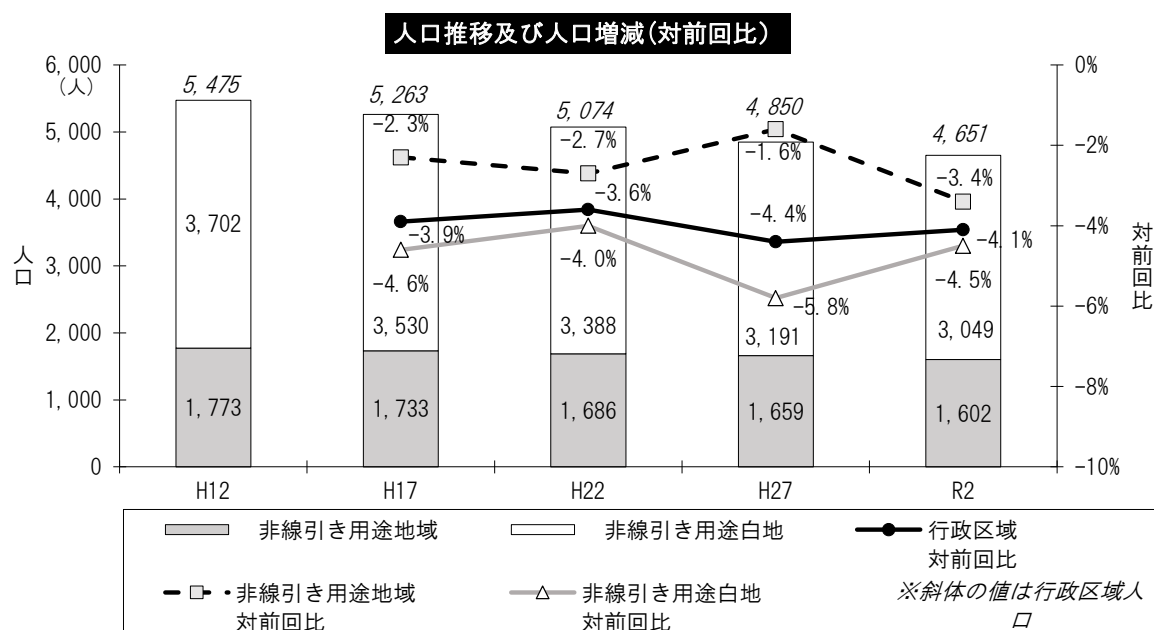
平成 12 年から令和 2 年にかけて行政区域の人口（都市計画区域の人口と同一）は一貫して減少傾向にあり、20 年間で 824 人（15.1%）減少している。各期間の減少率は概ね 4%前後で推移しており、特に平成 22 年から平成 27 年にかけては 4.4%減と、最も大きな減少幅を示している。

また、非線引き用途地域および非線引き用途白地においても人口減少が続いているが、非線引き用途地域では減少幅が比較的緩やかであるのに対し、非線引き用途白地では減少幅が大きい傾向にある。

図表 1. C0101_人口総数・増加数(集計表)

区域区分	H12年	H12年～ H17年の増減		H17年	H17年～ H22年の増減		H22年	H22年～ H27年の増減		H27年	H27年～ R2年の増減		R2年
	人口 人	人口 人	率 %	人口 人	人口 人	率 %	人口 人	人口 人	率 %	人口 人	人口 人	率 %	人口 人
行政区域	5,475	-212	-3.9	5,263	-189	-3.6	5,074	-224	-4.4	4,850	-199	-4.1	4,651
都市計画区域	5,475	-212	-3.9	5,263	-189	-3.6	5,074	-224	-4.4	4,850	-199	-4.1	4,651
非線引き用途地域	1,773	-40	-2.3	1,733	-47	-2.7	1,686	-27	-1.6	1,659	-57	-3.4	1,602
非線引き用途白地	3,702	-172	-4.6	3,530	-142	-4.0	3,388	-197	-5.8	3,191	-142	-4.5	3,049

注）平成 12・17 年の非線引き用途地域人口は分断された町丁目単位区域の住宅数で案分比を決定し、人口を配分し算定（平成 12, 17, 22, 27 年、令和 2 年国勢調査をもとに作成）



図表 2. 人口推移及び人口増減(対前回比)

C0101_年齢・性別人口

令和2年の5歳階級別人口を見ると、男女ともに第1次ベビーブームに該当する世代である70～74歳の人口が最も多い。一方、15～40歳未満および0～4歳の年齢層は比較的少なく、男女とも各階級で100人を下回っている。

平成12年と令和2年を比較すると、平成12年には5～19歳および40～69歳の年齢層に人口の重心があったのに対し、令和2年には年齢構成が高齢側へ移行し、60～79歳の年齢層に重心がスライドしている。

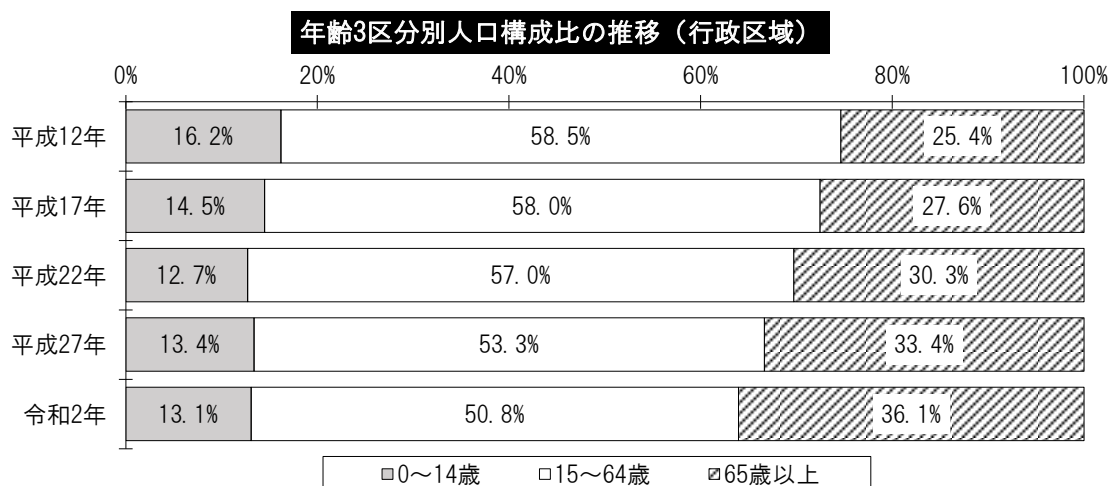
年齢3区分別人口を見ると、0～14歳および15～64歳の人口割合は一貫して減少している一方、65歳以上は増加し続けている。人口数では、0～14歳が886人から609人（31.3%減）、15～64歳が3,201人から2,365人（26.1%減）と減少しているのに対し、65歳以上は1,388人から1,677人（20.8%増）となっている。構成比では、15歳未満が16.2%から13.1%、15～64歳が58.5%から50.8%に減少する一方、65歳以上は25.4%から36.1%へと大きく増加している。

図表 3. C0101_年齢・性別人口(集計表)

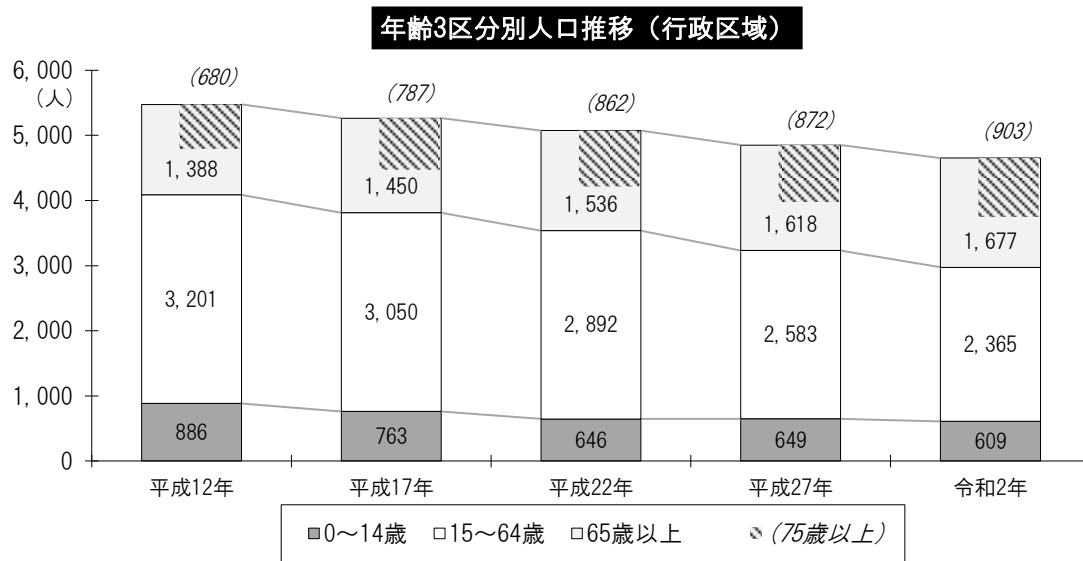
単位：人

	平成12年			平成17年			平成22年			平成27年			令和2年		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
0-4歳	205	108	97	204	99	105	206	102	104	191	87	104	182	92	90
5-9歳	336	152	184	218	121	97	219	112	107	225	102	123	197	92	105
10-14歳	345	181	164	341	157	184	221	124	97	233	119	114	230	103	127
15-19歳	320	179	141	272	144	128	278	121	157	168	92	76	185	88	97
20-24歳	223	118	105	223	124	99	177	84	93	175	79	96	122	57	65
25-29歳	280	127	153	240	130	110	219	129	90	181	94	87	176	86	90
30-34歳	275	142	133	254	122	132	247	127	120	245	126	119	180	93	87
35-39歳	279	135	144	254	126	128	263	133	130	272	130	142	248	132	116
40-44歳	357	162	195	292	141	151	270	133	137	264	134	130	279	130	149
45-49歳	397	206	191	357	163	194	285	141	144	270	131	139	277	147	130
50-54歳	394	201	193	387	201	186	351	162	189	274	130	144	275	135	140
55-59歳	338	167	171	413	206	207	392	202	190	344	161	183	275	135	140
60-64歳	338	163	175	358	174	184	410	201	209	390	205	185	348	162	186
65-69歳	352	169	183	335	163	172	351	175	176	410	198	212	377	192	185
70-74歳	356	158	198	328	151	177	323	152	171	336	172	164	397	190	207
75歳以上	680	269	411	787	303	484	862	335	527	872	340	532	903	355	548
不詳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総数	5,475	2,637	2,838	5,263	2,525	2,738	5,074	2,433	2,641	4,850	2,300	2,550	4,651	2,189	2,462

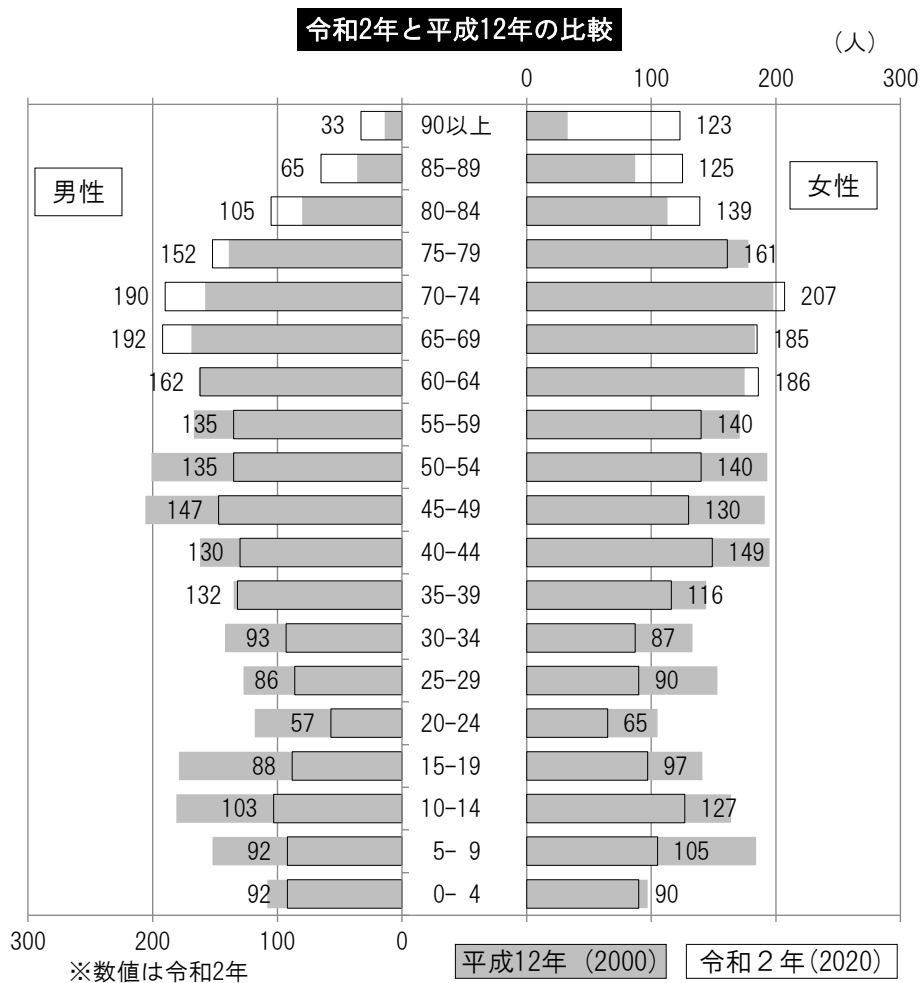
(平成12, 17, 22, 27年、令和2年国勢調査) 男女別・年齢階級(5歳階級) 別人口をもとに作成)



図表 4. 年齢3区分別人口構成比の推移(行政区域)



図表 5. 年齢3区分別人口の推移（行政区域）



図表 6. 5歳階級別性別人口（行政区域）_（令和2年と平成12年の比較）

C0103 将来人口

国立社会保障・人口問題研究所による中川村の将来人口推計では、今後も人口減少が続くことが見込まれており、令和2年から30年後の令和32年にかけて、総人口は4,651人から3,188人へと減少し、31.5%の大幅な減少となる見通しである。

年齢3区分別に見ると、いずれの区分においても人口は減少し、特に15歳未満の若年層および15～64歳の生産年齢人口は、令和2年と比較し令和32年にはそれぞれ35.1%減、39.5%減と大きな減少が見込まれている。このことから、将来的な労働力不足や地域経済活動の縮小が懸念される。一方、65歳以上の人口減少は18.7%減、75歳以上は7.0%減にとどまり、高齢人口の割合が相対的に高い状態が続くことが想定される。

図表 7. 将来人口（集計表）

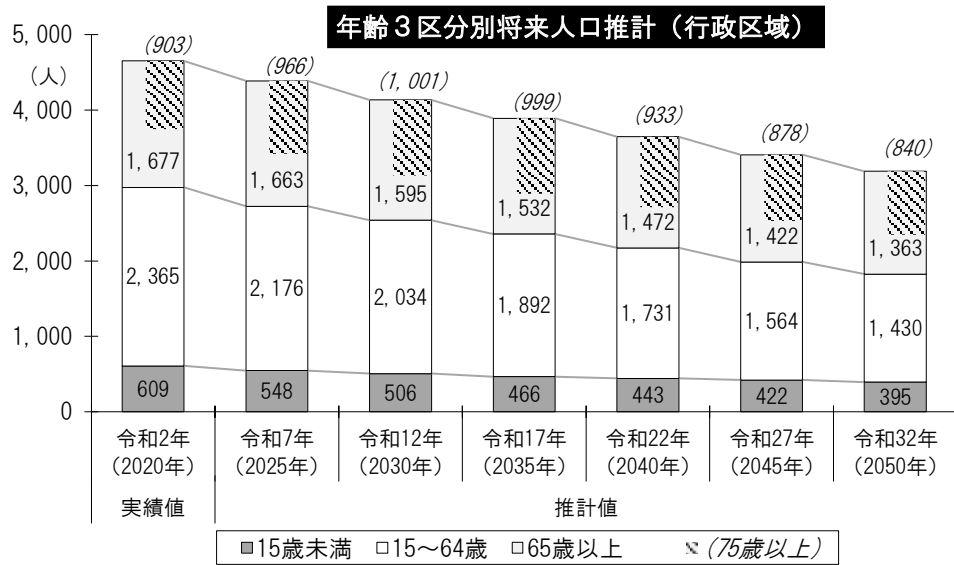
単位：人

	令和2年（2020年）			令和7年（2025年）			令和12年（2030年）			令和17年（2035年）		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
総数	4,651	2,189	2,462	4,387	2,076	2,311	4,135	1,964	2,171	3,890	1,846	2,044
0-4歳	182	92	90	154	79	75	146	75	71	143	73	70
5-9歳	197	92	105	191	96	95	163	83	80	155	79	76
10-14歳	230	103	127	203	95	108	197	99	98	168	86	82
15-19歳	185	88	97	183	77	106	161	71	90	157	75	82
20-24歳	122	57	65	128	57	71	125	50	75	111	46	65
25-29歳	176	86	90	126	65	61	130	64	66	127	57	70
30-34歳	180	93	87	191	89	102	137	67	70	140	65	75
35-39歳	248	132	116	186	96	90	198	92	106	142	69	73
40-44歳	279	130	149	252	133	119	192	99	93	204	95	109
45-49歳	277	147	130	281	134	147	254	136	118	196	103	93
50-54歳	275	135	140	277	146	131	280	133	147	253	134	119
55-59歳	275	135	140	278	138	140	279	149	130	283	136	147
60-64歳	348	162	186	274	135	139	278	139	139	279	150	129
65-69歳	377	192	185	339	156	183	270	132	138	273	135	138
70-74歳	397	190	207	358	181	177	324	148	176	260	126	134
75歳以上	903	355	548	966	399	567	1,001	427	574	999	417	582
15歳未満	609	287	322	548	270	278	506	257	249	466	238	228
15～64歳	2,365	1,165	1,200	2,176	1,070	1,106	2,034	1,000	1,034	1,892	930	962
65歳以上	1,677	737	940	1,663	736	927	1,595	707	888	1,532	678	854

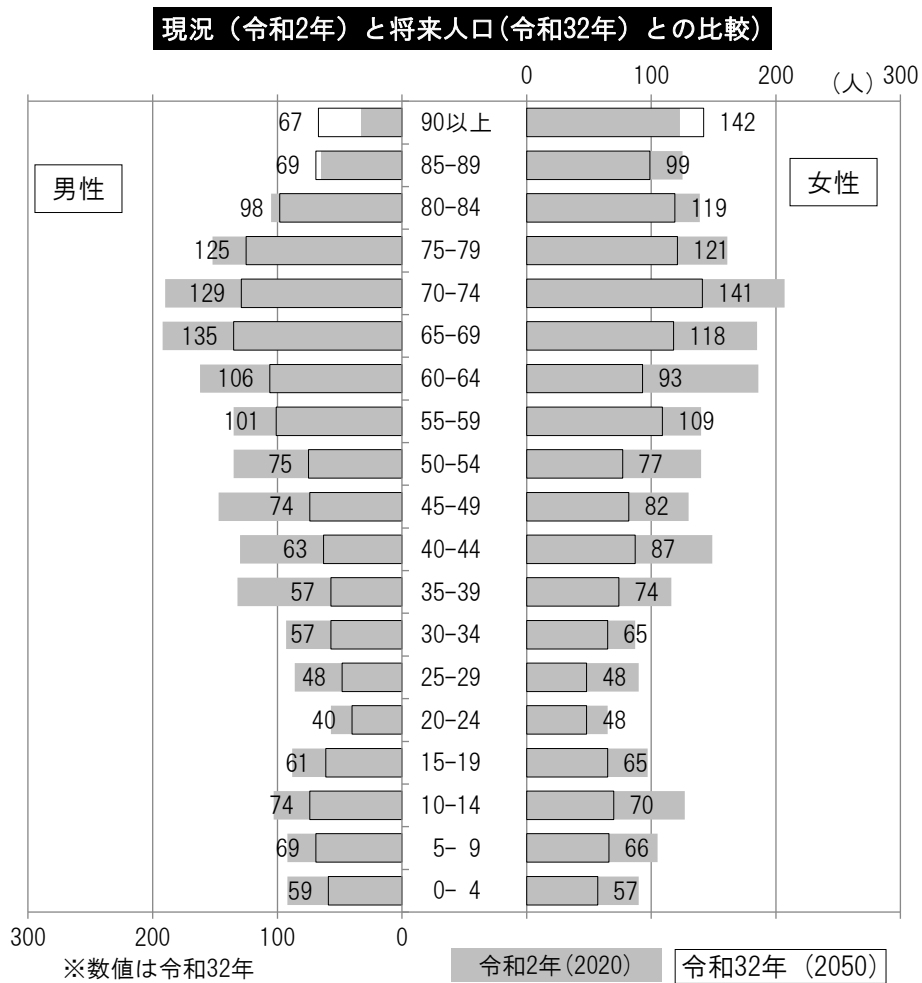
	令和22年（2040年）			令和27年（2045年）			令和32年（2050年）		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
総数	3,646	1,725	1,921	3,408	1,611	1,797	3,188	1,507	1,681
0-4歳	129	66	63	125	64	61	116	59	57
5-9歳	153	78	75	139	71	68	135	69	66
10-14歳	161	82	79	158	81	77	144	74	70
15-19歳	134	65	69	128	62	66	126	61	65
20-24歳	108	48	60	91	41	50	88	40	48
25-29歳	114	53	61	111	55	56	96	48	48
30-34歳	139	58	81	125	54	71	122	57	65
35-39歳	147	68	79	145	61	84	131	57	74
40-44歳	147	71	76	151	70	81	150	63	87
45-49歳	207	99	108	151	75	76	156	74	82
50-54歳	196	102	94	207	98	109	152	75	77
55-59歳	256	137	119	199	105	94	210	101	109
60-64歳	283	137	146	256	138	118	199	106	93
65-69歳	275	146	129	279	134	145	253	135	118
70-74歳	264	130	134	265	140	125	270	129	141
75歳以上	933	385	548	878	362	516	840	359	481
15歳未満	443	226	217	422	216	206	395	202	193
15～64歳	1,731	838	893	1,564	759	805	1,430	682	748
65歳以上	1,472	661	811	1,422	636	786	1,363	623	740

（将来の地域別男女5歳階級別人口（令和5年推計）〔国立社会保障・人口問題研究所〕年齢別男女別将来人口をもとに作成）

（令和2年の数値は国勢調査）



図表 8. 年齢3区分別将来人口推計（行政区）



図表 9. 現況と将来人口との比較（令和2年：令和32年）

C0104 人口増減

行政区域における平成12年から令和2年の人口動態を見ると、自然動態は一貫して減少傾向にあり、年々その減少幅が拡大している。一方で、令和2年には出生数が増加に転じており、一定の明るい兆しも見られる。

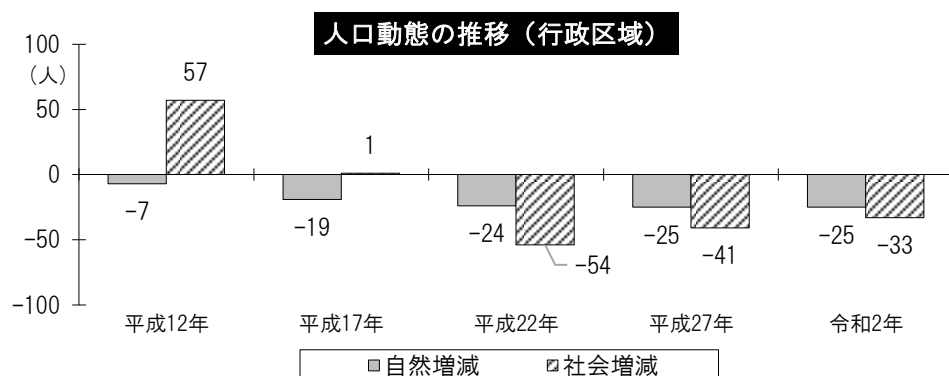
社会動態については、平成12年に転入者の大幅な増加により人口増加となっている。平成17年は、転入者数がこの20年間で最も多かったものの、転出者数も同時に最大となったため、社会動態はプラス1人ととどまっている。平成22年以降は、自然減の拡大に加え、社会減の幅も大きくなっており、人口減少が加速する傾向が見られる。

図表 10. 人口増減（集計表）_（行政区域）

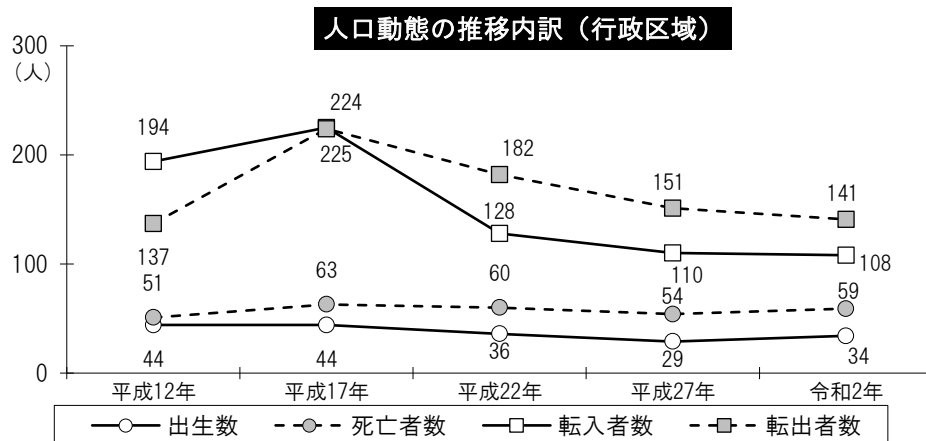
単位：人

	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
自然増減	-7	-19	-24	-25	-25
出生数	44	44	36	29	34
死亡者数	51	63	60	54	59
社会増減	57	1	-54	-41	-33
転入者数	194	225	128	110	108
転出者数	137	224	182	151	141
（その他増減）	-3	2	0	0	1
人口増減 計	47	-16	-78	-66	-57

（長野県の統計情報 毎月人口異動調査 市町村別異動状況をもとに作成）



図表 11. 人口動態の推移（行政区域）



図表 12. 人口動態の推移内訳（行政区域）

C0105 通勤・通学移動

平成 12 年から令和 2 年までの就業者による流出・流入人口を見ると、常住地および従業地いずれも減少が続いている。一方、流出率・流入率はともに増加傾向にあり、令和 2 年は順に 52.7%、34.1%となっており、流出率が流入率を上回っている。

通学者数については、平成 12 年以降減少が続き、近年では減少幅が大きくなっている。令和 2 年の通学者の流出率は 79.4%と高く、流入率は 2.9%にとどまっている。

令和 2 年の市町村別の流出入先を見ると、就業者の主な流出・流入先は駒ヶ根市、飯島町、松川町などの隣接市町に集中している。また、通学者の流出先は飯田市が最も多くなっている。

図表 13. C0105_通勤・通学移動（集計表）_<就業者>

年	常住地による 就業者数 (人)	流出		従業地による 就業者数 (人)	流入		従／常 就業者比率 (%)
		就業者数 (人)	流出率 (%)		就業者数 (人)	流入率 (%)	
平成12年	3,167	1,395	44.0	2,341	569	24.3	73.9
平成17年	3,014	1,445	47.9	2,171	602	27.7	72.0
平成22年	2,858	1,438	50.3	2,120	697	32.9	74.2
平成27年	2,816	1,452	51.6	2,040	673	33.0	72.4
令和2年	2,683	1,415	52.7	1,928	658	34.1	71.9

(平成 12, 17, 22, 27 年、令和 2 年国勢調査 常住地・従業地における就業者数をもとに作成)

図表 14. C0105_通勤・通学移動（集計表）流出・流入先人口推移 _<就業者>

年	流出先								
	流出率第1位			流出率第2位			流出率第3位		
	市町村名	流出者数 (人)	流出率 (%)	市町村名	流出者数 (人)	流出率 (%)	市町村名	流出者数 (人)	流出率 (%)
平成12年	駒ヶ根市	318	10	飯島町	317	10.0	松川町	247	7.8
平成17年	駒ヶ根市	338	11.2	飯島町	304	10.1	飯田市	237	7.9
平成22年	駒ヶ根市	376	13.2	飯島町	278	9.7	飯田市	244	8.5
平成27年	駒ヶ根市	326	11.6	飯島町	258	9.2	飯田市	256	9.1
令和2年	駒ヶ根市	319	11.9	飯島町	248	9.2	松川町	243	9.1
年	流出先								
	流出率第4位			流出率第5位					
	市町村名	流出者数 (人)	流出率 (%)	市町村名	流出者数 (人)	流出率 (%)			
平成12年	飯田市	233	7.4	高森町	83	2.6			
平成17年	松川町	222	7.4	高森町	107	3.6			
平成22年	松川町	228	8.0	高森町	91	3.2			
平成27年	松川町	246	8.7	伊那市	101	3.6			
令和2年	飯田市	240	8.9	高森町	101	3.8			
年	流入先								
	流入率第1位			流入率第2位			流入率第3位		
	市町村名	流入者数 (人)	流入率 (%)	市町村名	流入者数 (人)	流入率 (%)	市町村名	流入者数 (人)	流入率 (%)
平成12年	松川町	172	7.3	飯島町	150	6.4	駒ヶ根市	88	3.8
平成17年	松川町	195	9.0	飯島町	149	6.9	駒ヶ根市	99	4.6
平成22年	飯島町	189	8.9	松川町	186	8.8	駒ヶ根市	114	5.4
平成27年	松川町	190	9.3	飯島町	182	8.9	駒ヶ根市	117	5.7
令和2年	松川町	190	9.9	飯島町	163	8.5	駒ヶ根市	116	6.0
年	流入先								
	流入率第4位			流入率第5位					
	市町村名	流入者数 (人)	流入率 (%)	市町村名	流入者数 (人)	流入率 (%)			
平成12年	飯田市	54	2.3	高森町	39	1.7			
平成17年	飯田市	47	2.2	高森町	30	1.4			
平成22年	飯田市	56	2.6	高森町	40	1.9			
平成27年	飯田市	64	3.1	高森町	38	1.9			
令和2年	飯田市	74	3.8	高森町	37	1.9			

(平成 12, 17, 22, 27 年、令和 2 年国勢調査 常住地・従業地における就業者数をもとに作成)

図表 15. C0105_通勤・通学移動（集計表）_＜通学者＞

年	常住地による 通学者数 (人)	流出		従業地による 通学者数 (人)	流入		従／常 通学者比率 (%)
		通学者数 (人)	流出率 (%)		通学者数 (人)	流入率 (%)	
平成12年	276	230	83.3	46	0	0.0	16.7
平成17年	255	205	80.4	50	0	0.0	19.6
平成22年	262	223	85.1	41	1	2.4	15.6
平成27年	161	135	83.9	28	1	3.6	17.4
令和2年	165	131	79.4	35	1	2.9	21.2

(平成12、17、22、27年、令和2年国勢調査 常住地・従業地における通学者数をもとに作成)

図表 16. C0105_通勤・通学移動（集計表）流出・流入先人口推移_＜通学者＞

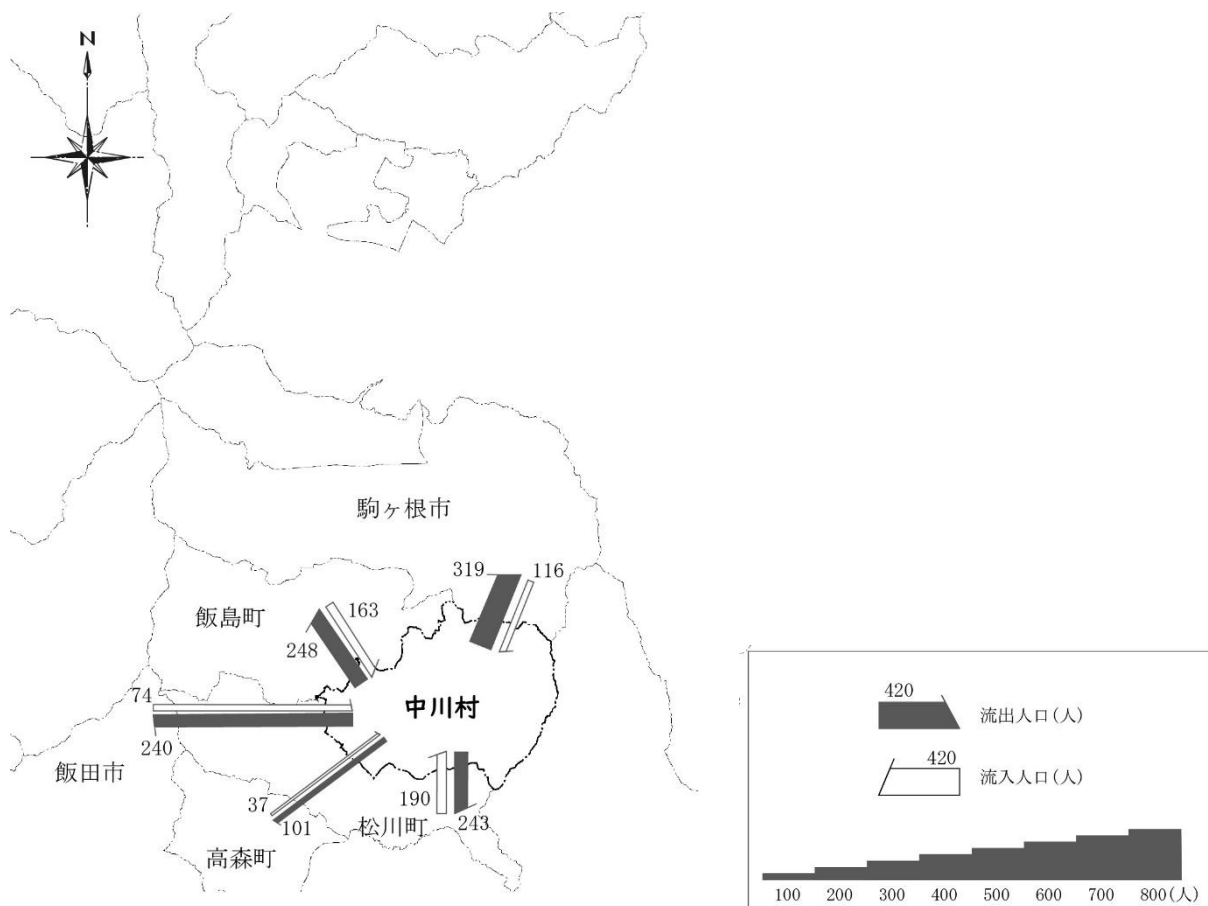
年	流出先								
	流出率第1位			流出率第2位			流出率第3位		
	市町村名	流出者数 (人)	流出率 (%)	市町村名	流出者数 (人)	流出率 (%)	市町村名	流出者数 (人)	流出率 (%)
平成12年	飯田市	71	25.7	駒ケ根市	54	19.6	松川町	48	17.4
平成17年	飯田市	73	28.6	伊那市	54	21.2	駒ケ根市	35	13.7
平成22年	飯田市	75	28.6	伊那市	46	17.6	駒ケ根市	39	14.9
平成27年	飯田市	51	31.7	松川町	26	16.1	駒ケ根市	22	13.7
令和2年	飯田市	54	32.7	伊那市	20	12.1	駒ケ根市	18	10.9

年	流出先					
	流出率第4位			流出率第5位		
	市町村名	流出者数 (人)	流出率 (%)	市町村名	流出者数 (人)	流出率 (%)
平成12年	伊那市	46	16.7	松本市 箕輪町 南箕輪村	2	0.7
平成17年	松川町	15	5.9	松本市	8	3.1
平成22年	松川町	21	8.0	南箕輪村	12	4.6
平成27年	伊那市	20	12.4	松本市	4	2.5
令和2年	松川町	15	9.1	箕輪町	3	1.8

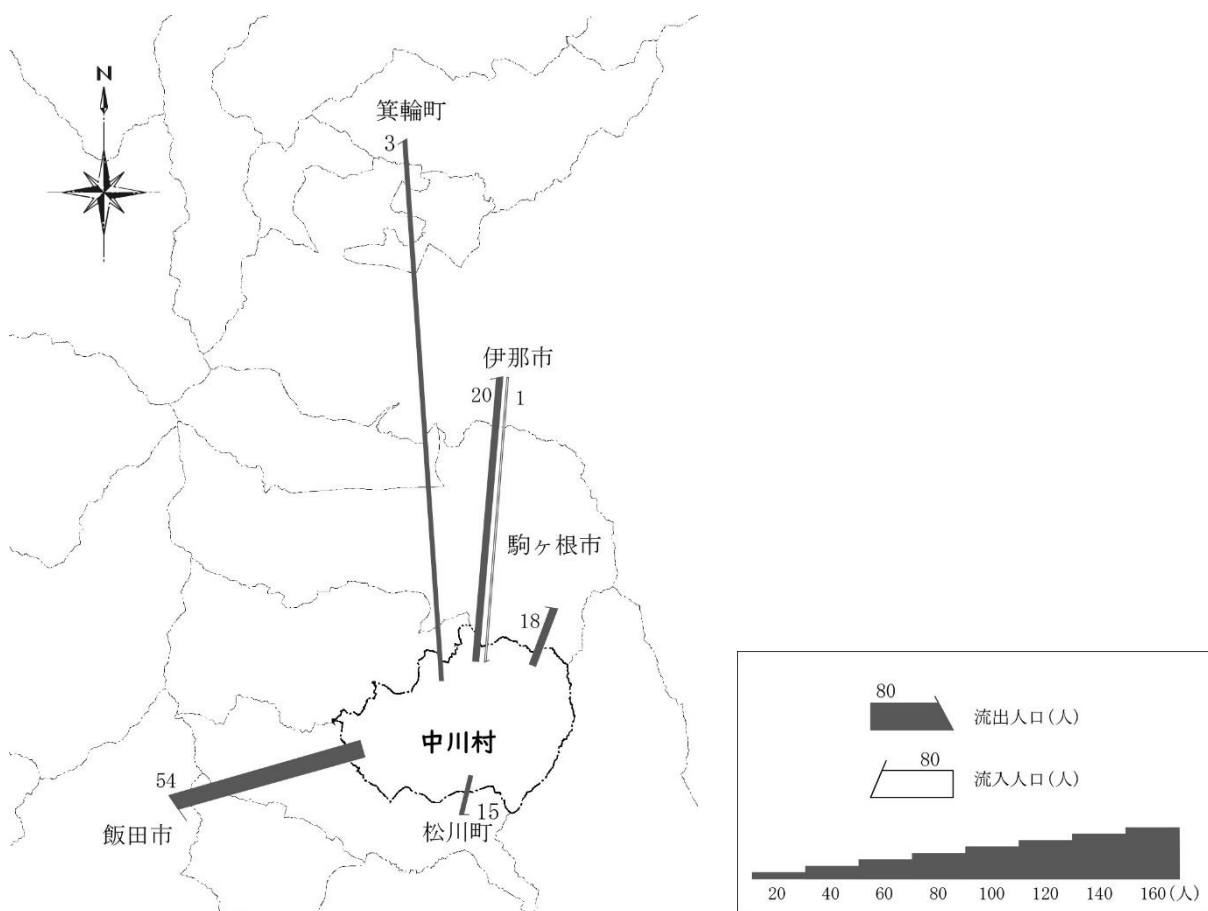
年	流入先								
	流入率第1位			流入率第2位			流入率第3位		
	市町村名	流入者数 (人)	流入率 (%)	市町村名	流入者数 (人)	流入率 (%)	市町村名	流入者数 (人)	流入率 (%)
平成12年	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平成17年	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平成22年	辰野町	1	2.4	-	-	-	-	-	-
平成27年	松川町	1	3.6	-	-	-	-	-	-
令和2年	伊那市	1	2.9	-	-	-	-	-	-

年	流入先					
	流入率第4位			流入率第5位		
	市町村名	流入者数 (人)	流入率 (%)	市町村名	流入者数 (人)	流入率 (%)
平成12年	-	-	-	-	-	-
平成17年	-	-	-	-	-	-
平成22年	-	-	-	-	-	-
平成27年	-	-	-	-	-	-
令和2年	-	-	-	-	-	-

(平成12、17、22、27年、令和2年国勢調査 常住地・従業地における通学者数をもとに作成)



図表 17. 流出・流入人口（令和2年）_＜就業者＞



図表 18. 流出・流入人口（令和2年）_＜通学者＞